HPV ワクチン接種外来

【キャッチアップ接種に関する最新の検討状況】（2025 年 1 月 8 日更新）

NEW

今夏以降の大幅な需要増により、HPV ワクチンの接種を希望しても受けられなかった方がいらっしゃる状況等を踏まえ、**2025 年 3 月末までに接種を開始した方**が、全 3 回の接種を公費で完了できるようにする方針について、国の審議会で了承されました。

○対象者：

- キャッチアップ接種対象者のうち、2022 年 4 月 1 日～**2025 年 3 月 31 日**までに HPV ワクチンを 1 回以上接種した方
- 2008（平成 20）年度生まれの女子で、2022 年 4 月 1 日～**2025 年 3 月 31 日**までに HPV ワクチンを 1 回以上接種した方

○期間：キャッチアップ接種期間（2025 年 3 月 31 日まで）終了後、1 年間

はじめに

産婦人科では、HPV（ヒトパピローマウイルス）に対する**キャッチアップ接種対象者**や **27 歳以上 45 歳未満のワクチン接種希望者**を対象に HPV ワクチンの接種を令和 5 年 6 月 5 日より開始されています。

キャッチアップ接種とは

HPV は性交渉で子宮頸部に感染し、子宮頸がんや子宮頸部異形成を引き起こす可能性のあるウイルスです。HPV ワクチンを接種することで子宮頸がんを効果的に予防できることが期待できます。現在、日本では小学 6 年生～高校 1 年生の女子が定期接種の対象となっています。

しかし、日本ではＨＰＶワクチンの接種が 1997 年 4 月 2 日～2006 年 4 月 1 日生まれの誕生日の女性はワクチンの接種が受けることができなかった世代となっています。厚生労働省はこの世代を対象に公費負担として接種の機会を提供しており、これを「**キャッチアップ接種**」といいます。（～2025 年 3 月まで）

当科でのワクチン接種の対象者

① キャッチアップ接種の接種券をお持ちの方（東京 23 区内）　→ 公費

② キャッチアップ接種の対象者だが、接種券をお持ちない方 *　→ 自費

③ 27 歳以上 45 歳未満の接種希望者　→ 自費

* 公費負担となるケースがございますので、お住まいの各市町村の自治体へお問い合わせください。

その他の注意点

・原則、HPV ワクチン接種歴がなく、当院で計 3 回接種いただける方を対象としています。

・ご自身がキャッチアップ接種の対象か不明の方は、お住まいの各市町村の自治体へお問い合わせください。

・定期接種対象者(小学 6 年生～高校 1 年生)は対象となりません。お近くの小児科・内科・婦人科での接種をお願いいたします。

・未成年の方は、保護者様が外来予約をお願いいたします。また、当日は保護者様の付き添いが必要です。

HPV ワクチンの種類

日本国内で承認されているワクチンは以下の 3 つです。

- 2 価ワクチン（サーバリックス）・・・HPV16 / 18 型を予防
- 4 価ワクチン（ガーダシル）・・・・・HPV16 / 18 型 ＋6 / 11 型を予防
- 9 価ワクチン（シルガード 9）・・・・HPV16 / 18 / 31 / 33 / 45 / 52 / 58 型 ＋6 / 11 型を予防

※いずれも公費補助対象者が自己負担なく受けられますが、当院での取り扱いは

9 価ワクチン（シルガード 9）のみとなります。

接種スケジュール

9 価ワクチン（シルガード 9）の接種は決められた間隔をあけて、**合計 3 回接種**します。

1 回目または 2 回目に気になる症状が現れた場合は、それ以降の接種をやめることができますのでご相談ください。

* 2 回目と 3 回目の接種が上記通りにできない場合、2 回目は 1 回目から 1 ヶ月以上、3 回目は 2 回目から 3 ヶ月以上間隔をあければ接種可能です。

費用

●公費の方(上記①)

シルガード（9 価ワクチン）：自己負担の発生はありません。

●自費の方(上記②または③)

シルガード 9(9 価ワクチン)3 回接種→総額 99,000 円(1 回につき 3,3000 円)

※当院ではシルガード（9 価ワクチン）のみの取り扱いになります。

HPV ワクチンの副反応

HPV ワクチンには以下の副反応が報告されています。

- 10%以上：注射部位の疼痛、発赤、掻痒感、腫脹
- 1~10%：発熱、発心、頭痛、倦怠感、悪心
- 1%未満：しびれ、脱力、めまい、四肢痛、骨格筋の硬直、腹痛、悪心、下痢

- 頻度不明：失神、関節痛・筋肉痛、リンパ節炎、蜂窩織炎、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群、急性散在性脳脊髄炎

ワクチン接種後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動等を中心とする多様な症状が起きたことが副反応疑いとして報告され、一時的にワクチン接種の勧奨が控えられていました。この多様な症状はワクチンによる神経学的疾患や中毒、免疫反応では説明できず、機能性身体症状であると考えられています。HPV ワクチン接種歴のない方で、同様の症状を有する患者さんが存在することも明らかになっており、これらの症状と HPV ワクチン接種に因果関係があることは証明されていません。ワクチン接種後にこのような症状が出現した場合、東邦大学産婦人科では、まず産婦人科で症状の聞き取り、診察を行い、必要に応じて整形外科、神経内科、麻酔科などと連携して、他の疾患の除外や症状緩和の治療を行っていきます。

HPV ワクチン外来（完全予約制）

日時：

令和 5 年 6 月 5 日（月）～ （完全予約制）

月～金　14：00～15：00　各日 3 人まで　（初診＋再診）*

土　　09：00～10：00　　各日 3 人まで　（再診のみ）

* 初診の方は月～金での予約をお願いいたします。

予約方法（患者さん専用ダイヤル）

- 電話　：　03-5763-5723
- 予約受付時間　：　月～金の 10：00～15：00

※予約変更する際は、月～金の 14：00～15：00　にご連絡ください。

予約時に必要な情報

- 氏名、生年月日
- 東邦大受診歴の有無（ある場合は診察券に記載の ID 番号）
- HPV ワクチンの接種歴の有無（ある場合は当院での接種はできません。）
- 予約希望の日程と時間

受診日の注意事項

- 自宅で検温し、高熱がある場合にはご連絡ください
- 接種券と記入済みの問診票を持ってきてください
- 肩が出しやすい服装で来院してください

HPV ワクチン接種の流れ

1. **予約**
   上記予約専用電話に受付時間内に電話してください。
2. **当日受付**
   詳細は、電話での予約受付時にご説明いたします。

3. **診察・接種**

   医師による診察で、体調に問題ないことを確認し、ワクチン接種を行います。

4. **経過観察**

   待合にて 30 分間の経過観察を行います。経過観察時間が終わったら終了です。

Q&A　ワクチン接種の効果と副反応について

Q1　以前 1 回だけ接種を受けたのですが、何年も経ってから 2 回目、

3 回目の接種を受けても効果はあるのでしょうか

A1　HPV ワクチンの接種スケジュールについては、８年以上の接種間隔が空いた場合のエビデンスは国内外で認められていません。現状入手可能なエビデンスによれば、１～５年の接種間隔が空いた場合の海外の研究にて、通常の接種スケジュールと比較して同程度の効果と安全性が認められています。

Q2　HPV ワクチン接種を受ければ子宮頸がん検診は受けなくても良いですか

A2　現在のワクチンでは、子宮頸がんハイリスク HPV の一部を予防することができません。また、まれではありますが、HPV に関連がない子宮頸がんも存在します。よって HPV ワクチン接種を受けた場合でも子宮頸がん検診は必要です。HPV ワクチンと子宮頸がん検診をうまく組み合わせることで、子宮頸がんにかかるリスクを減らし、かかった場合でも早期発見、早期治療を可能にすることができます。

Q3　性交渉歴があるのですが、ワクチンの効果はあるでしょうか

A3　HPV ワクチンには HPV 感染後にウイルスを除去する力はありません。初回性交渉前に接種を行った場合と比較して、性交渉後に行った場合に効果が落ちると報告されています。すでに子宮頸部の細胞診異常がある場合に、それを治療する効果はありません。しかし HPV 感染は 90%が自然に治癒すると報告されており、自然治癒後の再感染を予防する可能性があります。また、HPV に感染している場合でも、ハイリスク HPV すべての型に感染している場合は少なく、今感染していない型の感染予防効果はあると考えられます。

Q4　重症な副反応がおこることが心配です。ワクチンを打った方が良いでしょうか。

A4　すべての医療行為にはメリットとデメリットがあります。HPV ワクチン接種時や接種後に約 5~8 割の方で注射部位の痛みや腫脹が起こると言われています。また稀ではありますが、ギラン・バレー症候群のような重篤な副反応がおこることもあります。女性が生涯で子宮頸がんおよびその前がん病変に罹患する確率は 1.3%と言われており、HPV ワクチンで重篤な副反応を起こす確率は 0.05%程度と報告されています。全体としてはメリットの方が大きいと考え、接種を推奨しています。ただ子宮頸がんのリスクは個人でも異なり、また

ワクチン接種の効果（メリット）も年齢や性交渉歴によって異なります。接種を受ける際には自分にとってのメリットとデメリットを比較して、納得した上で接種を受けることをお勧めします。

Q&A　当院でのワクチン接種について

Q1　東邦大学病院の受診歴がなくても大学病院で接種できますか

A1　東京 23 区に住民票がある方であれば、受診歴がない場合でも、初診料がかからずに接種を受けることができます。自費での接種をご希望な方はいずれの自治体に住民票がある方も接種を受けることが可能です。

Q2　数年前に 1 回のみ接種していますが、3 回接種できますか

A3　申し訳ございませんが、当院では今まで接種歴がなく、3 回接種可能な方のみを対象としていますので、ご希望の方は他の医療機関での接種をお願いいたします。以前定期接種として 1 回または 2 回接種をうけている方で、キャッチアップ接種の対象となる方は、全部で 3 回になるように公費で追加接種を受けることが可能です。接種を受けたかどうかわからない、何回受けたか覚えていない場合には、接種を受けた自治体に確認してください。

Q4　9価ワクチンを接種することはできますか

A4　当院では公費接種、自費接種ともに、9価ワクチンのみの取り扱いになっております。

Q&A　その他

Q1　新型コロナウイルスワクチンと同時期に打っても大丈夫ですか

A1　新型コロナウイルスワクチンは、まだ新しいワクチンですので、他のワクチンとの接種との関係については厳密なルールやデータはありません。短期間のうちに2種類のワクチン接種受けると、副反応が出現した際にどちらのワクチンによる症状かが判断できなくなるため、どちらのワクチンが先であっても2週間は間隔をあけて接種するようお願いしています。

関連サイト

より詳しく知りたい方は、以下のページもご参照ください。

- ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～（厚生労働省）
- 子宮頸がんと HPV ワクチンに関する正しい理解のために（日本産科婦人科学会）